自衛官になるには?

自衛官になるためのコース

技術を身につけ陸曹を目指すコース

高等工科学校生徒（陸自）

対象：中学校卒業者

➡詳しくは**P24～25**

自衛隊の中堅の陸・海・空曹を目指すコース

一般曹候補生

対象：18歳から33歳未満

➡詳しくは**P28～29**

自衛隊の指揮官を目指すコース

防衛大学校学生

対象：18歳から21歳未満　※自衛官である者については、23歳未満
高等学校卒、中等教育学校卒、高等専門学校第3学年次修了者

➡詳しくは**P32～35**

自衛隊の看護官を目指すコース

防衛医科大学校学生 看護学科（自衛官候補看護学生）

対象：18歳から21歳未満
高等学校卒、中等教育学校卒、高等専門学校第3学年次修了者

➡詳しくは**P38～39**

自衛隊の第一線でスキルを身につけるコース

自衛官候補生

対象：18歳から33歳未満

➡詳しくは**P26～27**

パイロット等を目指すコース

航空学生（海自・空自）

対象：高校卒業者等

➡詳しくは**P30～31**

自衛隊の医官を目指すコース

防衛医科大学校学生 医学科

対象：18歳から21歳未満
高等学校卒、中等教育学校卒、高等専門学校第3学年次修了者

➡詳しくは**P36～37**

幹部自衛官を目指すコース

幹部候補生（一般、歯科・薬剤科・看護科）

対象：一般大学卒業者等

➡詳しくは**P40～46**

陸・海・空 自衛官の階級

自衛官は特別職の国家公務員としての身分が保証されており、それぞれの役割に応じて階級が定められています。
幹部自衛官 …… 組織のリーダーとなる自衛官　　**准曹士自衛官** …… 各部隊の中核となる自衛官

階級章（令和6年版防衛白書より）

共通呼称	陸上自衛隊	海上自衛隊	航空自衛隊
幹部自衛官	陸上幕僚長	海上幕僚長	航空幕僚長
	陸　将	海　将	空　将
	陸将補	海将補	空将補
	1等陸佐	1等海佐	1等空佐
	2等陸佐	2等海佐	2等空佐
	3等陸佐	3等海佐	3等空佐
	1等陸尉	1等海尉	1等空尉
	2等陸尉	2等海尉	2等空尉
	3等陸尉	3等海尉	3等空尉
准曹士自衛官	准陸尉	准海尉	准空尉
	陸曹長	海曹長	空曹長
	1等陸曹	1等海曹	1等空曹
	2等陸曹	2等海曹	2等空曹
	3等陸曹	3等海曹	3等空曹
	陸士長	海士長	空士長
	1等陸士	1等海士	1等空士
	2等陸士	2等海士	2等空士

陸上自衛隊の主な職種

陸・海・空の3自衛隊の中でも最大規模の約15万人の定員を有し、その職種は16種類あります。また、それぞれの職種は、職種特有の専門的職域のほか、各職種に共通する職域を有しています。災害派遣や国際平和協力業務など、多種多様な役割を担う陸上自衛隊は、活力ある柔軟性に富んだ人材を求めています。（※陸上自衛隊では職域分野のことを職種といいます。）

普通科

地上戦闘の骨幹部隊として、機動力、火力、近接戦闘能力を有し、作戦戦闘に決着をつける重要な役割を果たします。

機甲科

戦車部隊、機動戦闘車部隊、水陸両用車部隊及び偵察部隊があり、戦車などの正確な火力、優れた機動力及び装甲防護力により、敵を圧倒撃破するとともに迅速に機動します。

特科（野戦特科）

火力戦闘部隊として大量の火力を随時随所に集中して広域な地域を制圧します。

特科（高射特科）

対空戦闘部隊として侵攻する航空機を要撃するとともに、広範囲にわたり迅速かつ組織的な対空情報活動を行います。

情報科

情報に関する専門技術や知識をもって、情報資料の収集・処理及び地図・航空写真の配布を行い、各部隊を支援します。

航空科

各種ヘリコプターなどをもってヘリコプター火力戦闘、航空偵察、部隊の空中機動、物資の輸送、指揮連絡などを実施して、広く地上部隊を支援します。

施設科

戦闘部隊を支援するため、各種施設器材をもって障害の構成・処理、陣地の構築、渡河などの作業を行うとともに、施設器材の整備などを行います。

通信科

各種通信電子器材をもって部隊間の指揮連絡のための通信確保、電子戦の主要な部門を担当するとともに、写真・映像の撮影処理などを行います。

武器科

火器、車両、誘導武器、弾薬の補給・整備、不発弾の処理などを行います。

需品科

糧食・燃料・需品器材や被服の補給、整備及び回収、給水、入浴洗濯などを行います。

輸送科

大型車両をもって部隊、戦車、重火器、各種補給品を輸送するとともに、輸送の統制、ターミナル業務、道路交通規制などを行います。

化学科

各種化学器材をもって放射性物質などで汚染された地域を偵察し、汚染された人員・装備品などの除染を行います。

警務科

警護、道路の交通統制、隊員の規律違反の防止、犯罪捜査など部内秩序の維持に寄与します。

会計科

隊員の給与の支払いや、部隊の必要とする物資の調達などの会計業務を行います。

衛生科

患者の治療や医療施設への後送、部隊の健康管理、防疫及び衛生器材の補給・整備などを行います。

音楽科

隊員の士気を高揚するための演奏や広報活動に関する演奏を行います。

海上自衛隊の主な職域

現在、約4万3千人の自衛官が、約50種類の職域で活躍しています。

海上自衛隊の最新の装備は世界でも高い水準にあり、これらの装備の能力をフルに発揮して、与えられた任務を効果的に達成するためには、ハイテク技術を身につけ縦横無尽に装備を駆使できるプロフェッショナルであることが要求されます。同時に、国際性豊かでスマートなシーマンシップが必要とされます。

射　撃

護衛艦などにおいて、砲、ミサイルを操作し、各種目標に対する攻撃を実施します。また弾火薬などの取扱を実施します。

通　信

陸上基地、艦艇及び航空機などの通信、暗号の作成及び翻訳、通信機材・暗号器材及び関連機材の操作整備を業務としています。

水　雷

護衛艦、潜水艦で魚雷などの水中武器、ソナーなどの水中捜索機器を操作し、潜水艦の捜索、攻撃及び器材の整備を行います。

気象・海洋

気象・海洋観測、天気図類の作成、気象・海洋関係の情報の伝達に関する業務を行います。

航海・船務

航海は、艦艇の艦橋において航海に関する業務を実施します。船務は、レーダー・電波探知機などを活用し、戦術活動を実施します。

給　養

艦艇及び陸上部隊において、隊員に対する給食業務を実施します。

飛　行

P-3C/P-1哨戒機、US-2救難飛行艇、SH-60J/K哨戒ヘリコプターなどの搭乗員として飛行任務を実施します。

機　関

エンジン（ガスタービン、ディーゼルなど）発電機などの運転、整備及び火災、浸水対処などを業務とします。

航空機整備

航空機の機体、エンジン及び計器並びにこれらを維持するための器材などの整備、修理、補給などに関する業務を行います。

経理・補給

給与・旅費などの計算、物品の調達、部隊の任務を遂行するために必要な装備品などを準備し、供給する業務を実施します。

航空管制

飛行場及びその周辺を飛行する航空機に対する航空交通管制業務や艦艇において航空機に必要な情報を提供する業務を行います。

施　設

固有財産についての管理、運用、施設器材・施設車両を用いての建設、道路などの工事及び器材の設備を行います。

情　報

情報資料の収集、処理及び情報の配布、秘密保全などを業務とします。

潜　水

浅海域における簡単な水中作業や機雷・不発弾などの爆発物の捜索・処分、深海域における潜水艦などの乗員の救助に従事します。

衛　生

病院における医療及び医務室における健康管理や身体検査を実施するとともに、潜水に関する調査・研究を業務とします。

音　楽

音楽演奏を通じて隊員の士気を高揚します。また、広報活動に関する業務を行います。

掃海機雷

掃海艦艇などで機雷探知機、掃海具などを操作し、機雷の処分及び機雷の調整、器材の保守整備を行います。

その他　艦船整備、法務、警務、電計処理の職域もあります。

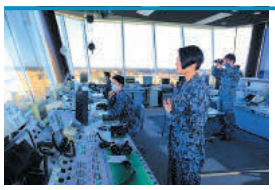
航空自衛隊の主な職域

現在、約4万4千人の自衛官が、30数種の職域で活躍しています。瞬時の判断・対応を要求される航空自衛隊にとっては、高度な技術を用いた装備品が不可欠であり、それらを駆使できるエキスパートが強く求められています。

また、国際平和協力業務支援のための航空機の海外運航など、航空自衛隊の活躍の場が広がり、より幅広い能力を持った人材が必要とされています。

操　縦

戦闘機、輸送機、救難機及び政府専用機などを操縦し、防空、航空輸送及び航空救難などを行います。



航空管制

航空自衛隊の飛行場（共用飛行場を含む）における航空交通管制業務を行います。

兵器管制

日本の領空を常時監視し、接近又は侵入してくる航空機を早期に発見・識別し、必要に応じて戦闘機の誘導を行います。

高　射

侵攻してくる弾道ミサイルや航空機、巡航ミサイルを撃破するため、ペトリオットミサイルシステムの操作及び器材の整備を行います。

電算機

電子計算機及び関連器材の操作やプログラムの作成、電子計算機システムの管理を行います。

気　象

航空機の離着陸及び飛行安全確保のため、気象観測・予報を行い、各種気象情報を全国の部隊に通報したり、天気図の作成を行います。

通　信

通信器材を操作し、電報などの送受信を行うほか、器材の整備管理などを行います。

武　装

航空機に搭載される武器弾薬などの補給、管理、整備を行います。

航空機整備

航空機のエンジンや搭載する電子機器類、レーダーなどの整備及び航空機の定期整備を行います。

施　設

基地内施設の維持管理（土木・建築・電気など）及び航空機事故や建物火災など非常時の消火、人命救助などを行います。

衛　生

隊員の健康診断及び各種身体検査のほか、医療、環境衛生、食品衛生検査を行います。

補　給

航空自衛隊で使用する物品の需給統制、在庫管理、取得出納、保管などを行います。

警　備

基地内巡察などを行い、基地の施設や物品の警護などを行うほか、基地内・基地出入者の監視などを行います。

音　楽

航空自衛隊には5つの音楽隊があり、国の行事や自衛隊の公式行事の時に演奏を行います。

輸　送

航空自衛隊で装備・使用されている車両で、人や貨物を輸送したり、航空機へ貨物を搭載したりする業務を行います。

会　計

隊員の給与・旅費の支払いや、部隊などの任務遂行に必要な物品などの調達を行います。

宇　宙

防衛省・自衛隊の多様な任務に重要な宇宙空間の安定的利用のため、宇宙領域専門部隊において、国内関係機関及び米軍と連携して、宇宙状況監視などの業務を行います。

その他　情報、隊務管理、教育、警務、法務、研究開発の職域もあります。